

育児休業に関する体験記 8

30代 62日間取得

① 家事 ・ 育児 について	<p>1. 育児休業前に、夫婦で家事・育児の分担をどのように話し合い、行ったか 私たちはお互いの仕事を列挙し確認しました。夜のミルクは私が担当し、家事については隔日で分担する形を取りました。お互いに負担を軽減しながら行えたと思います。</p> <p>2. 育児休業後の家事・育児の参画の状況について 家事や育児の協力は続けています。役割分担が今でもあります。夜のミルクを私が担当する習慣はそのまま続けております。家事については以前と同様に隔日で分担しています。</p> <p>(妻 記載欄) 休業取得者の家事・育児の参画の状況について 日頃食を作り、洗濯をし家事をこなしておりましたが、子供が生まれ困難な部分がありました。役割分担をすることで負担が軽減しておりましたので助かりました。</p>
② 仕事 について	<p>1. 休業取得前、仕事の引継ぎはどのように行ったか 職場の上司、同僚、部下と連携を取り、私がいなくとも仕事が回るようにしました。私が担当していた業務を抽出し、同僚に提示しておりましたので、何かあった時は柔軟に対応してくれおりました。周りの協力がありスムーズに業務がすすみ育休を取得することができました。</p> <p>2. 評価・反省 家事や育児の分担をしながら夫婦で協力できたことは良い経験となりました。お互いの負担を考えて対応できたことが良かったです。夫婦間の協力により育児への向き合い方だけでなく、日々のコミュニケーションをより密にする良いきっかけにもなりました。仕事の引継ぎについては職場のスタッフからの理解と協力を得ながら育児休業を取得できたことは非常にありがたかったです。業務内容を共有し整理できたことが引継ぎ担当の同僚もスムーズに業務を引き継ぐことにつながったと思います。</p>

<p>③ 自由 記述 (4 0 0 字 程 度)</p>	<p>(取得者 記載欄) (例:育児休業取得の経緯、育休を終えての所感、周囲の反応)</p> <p>育児休業を取得しようと考えたきっかけは、妻が里帰りをしないと決めたことでした。出産直後からの育児や家事は大きな負担となるため、夫婦で協力する必要があると感じ、2か月間の育児休業を取得することとしました。仕事への影響を心配しておりましたが職場の理解もあり取得してよかったですと感じています。</p> <p>育児休業を取ってみて、想像以上の大変さがありました。日々の家事に加えて、夜泣きやミルク、オムツ替えなど、体力勝負の部分がありました。その中でも、子供の成長を間近で感じられたことは貴重な経験となりました。</p> <p>私の親は「育休が取得できるなんて、良い会社だね」と驚きつつも喜んでくれました。私が育休を取れる環境に感謝すると同時に、取得することが当たり前の社会になってほしいと感じました。まだまだ男性の育児休業取得率は少ないと聞きます。私の経験が周囲へ良い影響を与え、意識の変化につながることを願っています。また、育児休業を通じて得た学びや気づきを、職場に伝えサポート体制の強化に活かしていきたいと考えております。</p>
---	---